

平成 24 年 6 月 20 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

## 記

### 1. 基本情報：

**開催日時：**平成 24 年 6 月 1 日（金） **場所：**浜田市弥栄町ふるさと体験村、 **参加人数：**約 30 名  
平成 24 年 6 月 3 日（日） **吉賀町基幹教育センター** 約 40 名  
**講師：**白川徹(震災支援担当)  
**講演テーマ：**「国際協力 NGO はどのように災害に向きあうか？」

### 2. 講演の目的：

国際交流について強い関心をもつ農家の方々に国際協力団体がいかに、海外での経験を活かして東日本大震災に関わったかの具体的な例を話し、NGO の活動について学ぶ機会を提供する。

### 3. 講演の内容：

●平成 24 年 6 月 1 日 18 時 30 分～ 20 時 00 分

東日本大震災における JVC の取組みを紹介した。特に講演者が福島県南相馬の担当であることもあり、同地での活動に関して掘り下げて詳細に説明した。

海外で JVC が重要視してきた「地域主導」「住民の巻き込み」「地域の文化や風習の尊重」の方法論の具体手例を、ラオスやスーダンでのプロジェクト紹介とともに説明し、それが南相馬での「災害 FM 支援」と「仮設住宅におけるコミュニティ・スペース支援活動」に活かされたか、写真を交えて説明した。

JVC は災害 FM の運営のためにスタッフを現地に常駐させたが、放送業務そのものに関わったのは初期の数カ月で、それ以降は地元スタッフのトレーニングを重視した。その後地元スタッフへのハンドオーバーをしていくようにした。結果、JVC が関わりを減らしても地元住民による継続性を持った放送の基盤が作られた。

そうした「関わり方」が、とくにカンボジアや南アフリカ等での開発支援で見いだされ、蓄積されたものであることをプロジェクトの経緯や現状を交えて説明した。

質疑応答：

Q. これまでの長年の経験の国際協力の経験が今回の震災でどのように活かされたのか。地域に入っていく際に気をつけたことは何か。

⇒ 世界中どこでもその地域の文化や価値観を尊重することが大事。そして、地元の人たちが考え、行動するための活動を行うことが重要ではないか。こちらから何かを持ってきて、それをただあげる、ということは支援でも何でもない。地域の人間だけで活動が続けられるようなシステムを一緒になって作っていくことが肝要だと思う。

Q. 距離的にも心理的にも遠い場所で自分たちは何ができるのか。今、被災地の人たちが求めていることは何なのか。

⇒ 団体としては寄付や会員になることをお願いしたいが、何よりも重要なのは「忘れない」ことだと考えている。困難な状況も知らなければその人にとって無かったことと同じになる。興味を持って知ろうとし続ける、「忘れない」ことも支援だと思う。



●平成 24 年 6 月 3 日 13 時 00 分～ 15 時 00 分

前半は 1 日と同じ内容の講演を行った。今回の講演では元 JVC スタッフとしてタイでの支援活動で長い経験を持つ村上慎平氏と対談を行った。海外での支援活動におけるスタンスをどのように国内で活かし、かつ広げていけるかについて話し合った。

- ・被災した方へ配慮したコミュニケーションのとり方。
- ・様々なセクターに配慮しながらの支援。
- ・活動体制やスタッフに対して、組織としてどのように配慮すればいいかの知識や経験があった。

質疑応答：

Q. 原発の問題は日本だけの問題ではなく、海外の問題でもある。今回の経験を海外の活動にどう活かしていきたいか。

⇒ 社会問題の根幹にあるのは、日本であれ海外であれ、システムだ。そこには資本やイデオロギーなどが常に複雑に絡まり、一部の人間が得するようにできている。表層に現れる問題だけを負うのではなく、その問題の原因自体に提言することが重要だ。



4. 所感：

もともと国際交流に関心の高い人々が参加された（JVC の「日タイ若手農民交流プログラム」に参加するなど）ため、国際協力 NGO がどのようにして東日本大震災に関わったかについての関心があつまった。聴衆の意識は高く、被災地に、ひいては途上国に何ができるのかを真剣に考え、また情報を求めているのだと感じた。

以上

平成 24 年 6 月 29 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

#### 記

1. 企画名:国際協力論特講「スーダンでの復興支援と平和構築について」
2. 出張者氏名: 佐伯 美苗(スーダン担当)
3. 依頼元 : 大原晋(成蹊大学文学部講師)
4. 実施日時:24 年 6 月 19 日(火)16 時 30 分~18 時 30 分
5. 実施場所:成蹊大学(東京都武蔵野市)
6. 実施内容と効果・所感:

#### 【講義の構成】

ODAとの対比による NGO の位置づけや役割説明、日本における NGO の歴史と JVC の成立背景(難民支援にどのような態度をとってきたかを中心に)、南北スーダンの歴史と現状、南北スーダンでの NGO の位置づけと課題(CPA 帰還と現在の紛争を中心に)、JVC のスーダンへの関わりと課題

#### 【主な質疑応答】

◆ スーダンという不安定な国に行くのに不安はありませんでしたか？

→ 最初に入国したのは、2003 年末、ダルフルでの医療再建のためでした。よくきかれる事柄ですが、不安はありませんでした。こわいイメージのある国に慣れてしまった、ということだと思いますが、それよりも、どんな人に会えるのか、期待が大きかったと思います。

◆ スーダンで食糧などを配るとき、軍隊や護衛はついているのか、護衛がなくてちゃんと配ることができるのですか？

→ こんにちはの人道支援分野において、たいへんデリケートな話題に関わる質問ですね。わたしの結論を申し上げますと、武装した警備や軍隊は、きちんと配給を行う上では邪魔になる、と考えています。邪魔になる、というのは、配給対象の人たち、地域の人たちに不安や無用の警戒心を起こさせる、ということと、同時に私たち自身が警戒対象になる可能性があるからです。

実際には、私たち人道支援の外国団体が単独で乗り込んで、食料を配ったりすることはなく、私たちと配給を受けるべき難民や被災民の間には、行政や地元の団体、地元の長老など世話役といった、仲介者がいます。自分たちが充分注意して、かれらと細かく調整しながら行えば、武装警備は却って脅威になることがあると思います。

◆ スーダンは英国が間接支配していたということですが、現在支援がほかの国よりも多いということはあるのでしょうか？

→ いい質問ですね。アフリカ諸国を植民地化していた英仏、またドイツ、ベルギーといった国々は、その関係性からたしかに多くの支援を旧植民地に出しています。

統計資料を用意していないので雑な数字ですが、スーダンについては、Common Humanitarian Fundという欧米の政府が出資する支援金があり、2011年半ばまでに9億100万米ドルが拠出されました。同時期、国連諸機関は南北両側に12億6,700万米ドルを出しています(ECHO)。時期は異なりますが、日本のODAによる南北への拠出は2010年度分だけで1億1,900万ドル、JICAの2006年度から2010年度までの累計は約1億5,200万ドル(122億円ベース)、というように、関心の度合いや過去の関係性が額面にも現れていると思います。

もちろん額面が多ければ多いほどよい支援だということではなく、もともと日本の評判が良好であり、日本の支援は歓迎されていることは注目すべきことだと思います。だからこそ、日本は官でも民でも、南北のいずれにも偏らない、地域安定化に努める支援をしなくてはならない時期にあります。

#### 【効果・所感】

スーダンを講演材料に採り上げる際、どこまで単純化して提示するか、詳細情報を入れて説明するか、をいつも迷っている。たいてい予備知識がないことを前提に、分かりにくい歴史背景や状況説明をしなくてはならないためである。

今回は、1年通して難民問題について講義するコマの中で、ある程度スーダンの難民・避難民問題についてしぼることになっていたためか、学生たちの反応ははやく、「支援のあり方について初めて考えた」「資源(石油)を購入することがどうなるのか知った」などのコメントからも、内容もある程度消化されたように見受けられた。

以上

#### 講演写真



## 第 23 回日本公民教育学会全国研究大会（仙台） における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体：**開発教育協会／DEAR

**日時：**2012 年 6 月 23 日（土）10：00～17：00

**場所：**東北大学川内北キャンパス（仙台市青葉区川内 41）

**事業名：**第 23 回日本公民教育学会全国研究大会

**主催団体：**日本公民教育学会

**後援：**宮城県教育委員会 仙台市教育委員会 東北大学

### 実施内容：相談対応（ブース出展）

学会には全国各地から教員、学校関係者や学生などの約 300 名の参加者があり、市民学習や国際理解教育、持続可能な開発のための教育／ESD などに関心のある参加者から約 20 件の相談を受けた。ブースには、学校でできる国際協力・国際理解教育を示すパネルを展示したことで、参加者の目を引くことが出来た。相談内容は、市民学習や ESD、国際理解教育に関する質問、教材や素材に対する相談、学校でできる国際協力活動についての質問などが多かった。また、学会のテーマも震災後の社会参加の促進や公民的資質の育成だったので、それに関する実践や資料紹介も行った。

### 所感および効果：

全国各地から熱心な教員が集まり、会場には熱気があった。各分科会では、震災後の社会づくりや復興に教育はどのような役割をもつのか、市民学習や社会参加を促す教育のあり方について、熱心に議論されていた。公民教育や市民学習に積極的に関わる学校や大学の教員、関係者が集まる機会に、NGO 相談員ブースを出展できたのは、良かったと思う。

新しい学習指導要領で「社会参画」が強調されたことから、今後学校で、市民学習や参加型学習、国際理解教育、国際協力への取り組みが進めやすくなるのでは、と期待している。

ただ、相談員ブースを設置した会場がメイン会場から離れていたのと、参加者が自由にブースを回る時間が限られていたので、全員がブースを訪れたわけではないこと、そしてゆっくりと相談を受ける時間が少なかったのが残念だった。中でも、市民学習や ESD、国際協力に関する学習をすすめるためのヒントを探している方が多く、全国にいる NGO 相談員の存在にも関心を持っていただくことが出来た。



## NGO相談員による出張サービス実施報告書

2012年6月29日

特定非営利活動法人横浜 NGO 連絡会

出張者 飯田信子

企画名：ボランティア・フェスタ～深めよう人とのつながり～

形態：講演・相談対応サービス

主催団体：桜美林大学 サービス・ラーニング・センター

実施日時：平成24年6月26日10時30分～14時30分

実施場所：桜美林大学 明々館（神奈川県相模原市中央区淵野辺4-16-1）

### （1）講演「国際協力とNGOの役割」

実施時間：12時10分～12時50分

受講人数：28名

横浜を中心として国際機関、地方自治体、NGO、企業等を紹介し、それぞれで国際協力を実施している状況について説明し、連携の重要性について説明した。

NGOで行っている現地支援、地球市民教育、政策提言、中間支援組織等の活動を取り上げ、NGOの役割について理解を図った。

### （2）相談対応サービス

実施時間：10時30分～12時 13時～14時30分

相談件数：3件

件数は3件に留まってはいるが、「NGOで活動したい」「修士論文としてNGOのプロジェクトについて研究している」「NGOはどのような人材を求めているか」等の相談について時間をかけて対応することができた。

### （3）所見

この大学は、学生数が約8000人、その内留学生が約500人と多く、国際協力や多文化共生に関する人材育成を図っている。今回初めて開催された「ボランティアフェスタ」では、学生で構成された国際をテーマとするグループがブースを出展し、独自で創造性あふれる活動紹介をしていた。

NGO相談ブースはこのような学生グループの一角に設置されており、学生たちとも積極的に情報交換を心がけた。夏休みには、この大学からインターン生を受け入れることになっており、今後さらにネットワークづくりを進める。



講演「国際協力とNGOの役割」



相談対応

2012年7月7日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人  
アジア日本相互交流センター・ICAN  
代表理事 田口 京子

## NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

### 記

1. 企画名：青年海外協力隊説明会（静岡開催）

【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：井川 定一

3. 主催団体名：公益財団法人とやま国際センター（JICA北陸推進員との連携）

4. 実施日時：2012年6月27日（水）13時30分～16時00分

5. 実施場所：富山国際大学サテライト・オフィス（富山県富山市新富町1-2-3 CICビル3階）

6. 参加者数：参加者 18人

7. 企画概要：キャリアガイダンスにおける講演業務

8. 所感及び効果：

富山県富山市で開催された「平成24年度国際協力のプロになるためのガイダンス」において、NGO活動及びNGOで求められている人材についての講演を行いました。前半で、NGOの定義、そして当団体がNGO連携無償により実施しているフィリピンミンダナオ島の紛争地における平和構築活動、NGOとODAの連携について説明を行いました。後半では、NGOで求められている資質や必要なキャリアについて説明を行い、参加者からも多くの質問を受け付けました。

参加者からは、そもそもNGO活動で給料をもらえること自体に驚いた、協力隊以外で海外で活動できる道があることを初めて知ったという声が聞かれました。有給のNGO職員がほとんどいない地域での講演であったため、有給のNGO職員が実体験を通して、NGOという選択肢があることを伝えられ、有意義な講演となるとともに、企画段階でJICA北陸との効果的な連携をとることができました。



以上

2012年6月30日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード  
NGO相談員 宮下 和佳

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：インドの暮らしを通じた国際理解講座 【形態：ワークショップ】

2. 出張者氏名：宮下 和佳

3. 依頼元／主催等団体名：サラダボール（任意団体）

4. 実施日時：平成24年6月23日（土）10時00分～12時00分

5. 実施場所：愛知県丹羽郡大口町児童センター

6. 参加人数：24名（大口町内の小学生および保護者）

7. 企画の概要

（1）企画内容：小学生が放課後や休日に利用する児童センターにおいて、子どもたちが外国（インド）の文化や生活を楽しく学ぶ、クラフト・ワークショップを実施する。

（2）目的：

①参加する子どもたちが、インドの文化や生活を学ぶことを通じて、途上国・外国への関心を高める。

②児童センター・保護者に対してNGO相談員制度について周知する。

8. 実施内容：

①スライドを使って、南インドの農村の生活や文化を紹介した。

②紙芝居を使って、南インドの農村部で実施している、村人による森林資源の再生と保全プロジェクトを紹介した。

③南インドの植物・端切れ布・包装紙などを材料としたクラフトづくり（壁掛けやペン立ての工作づくり）をおこなった。

9. 所感及び効果：開催地の大口町は、名古屋への通勤圏とはいえ、人口22,313人（8,016世帯）の小さな町である。地元で10年近く多文化共生や国際理解の活動を続けてきた任意団体サラダボールの主催で、24名の子どもと保護者が集まった。

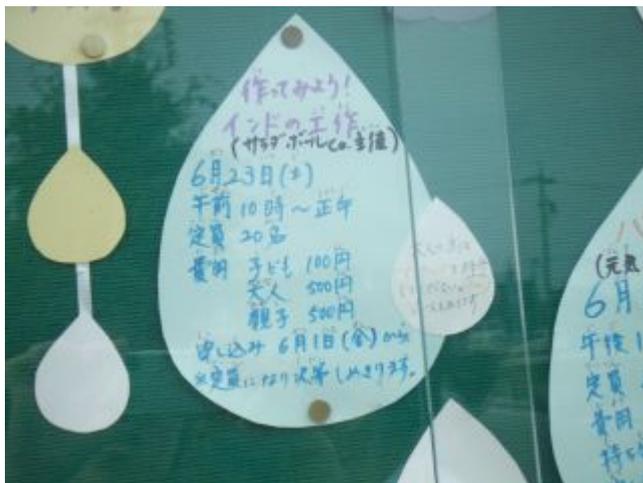
主催団体・保護者からは「めったに聞けないインドの話を子どもたちに提供できて、とても良い機会であった」と好評で、子どもたちの反応も大変活発であった。NGO 相談員の出張サービスによって、こうした都心部以外の地域での地道な国際理解活動に協力することが可能となった。

【参加した子どもからの感想文（抜粋）】

「私は、日本もゆたかだけれど、インドもゆたかでいいくにだと思いました」

「インドの工作で、すごい工作が作れました」

「私より小さな子がお母さんやお父さんたちのお手伝いとかをしている写真や、しょくりょうはどうやって手に入れるのかとか、どんなものを食べているのが良く分かりました」



## 2012（平成24）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 田中十紀恵

### 1. 企画名：

「2012 夏スタディツアー説明会～行ってみよう！もうひとつの旅～」NGO 相談員ブース出展  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成24（2012）年6月9日（土）  
13時30分～17時00分

場所：キャンパスプラザ京都  
出張者氏名：田中十紀恵



### 2. 実施内容：

夏にスタディツアーを実施する予定の NGO が集まり、ツアーへの参加を検討している人を対象に情報提供を行った。第1部はスタディツアーのシミュレーションをおこない、スタディツアー参加にあたっての態度や学ぶポイントについて解説をおこなった。第2部は各 NGO がブースを出展し、参加者はブースをまわって、個別に説明を聞いた。

当会は、スタディツアーの危機管理（旅行業法や保険、健康管理など）に関するセミナーを実施していることもあり、ツアーへの参加を検討している方、ツアーを実施している団体関係者、大学ボランティアセンター関係者からの相談に対応した。

### 3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：約 50 人、ブース出展：17 団体

### 4. 所感及び効果等：

スタディツアーへの参加を検討している人を対象とした企画ではあったが、スタディツアーの選択に関する相談だけではなく、NGO や国際協力に関する一般的な相談や開発教育に関する相談など、相談内容は多岐にわたった。当会は、参加者の関心に耳を傾け、客観的な立場から最適な NGO やツアーの紹介をおこなった。ブースを出展していた NGO からスタディツアーを実施する NGO の横のつながり構築に関する相談も寄せられた。

NGO 相談員が参加した効果として、スタディツアーそのものだけでなく、将来のキャリアパスの中でのスタディツアーの位置付けや、国際協力全般に対する相談対応をおこなうことができ、非常に有意義であった。

また、当会としては、スタディツアーという切り口での NGO の情報収集ができたことや、これまでは当会とのつながりが希薄であった NGO や大学関係者等との関係構築につながったことにより、相談対応の幅を広げることができたと感じる。



以上

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「聖和短期大学での講演」  
※出張形態：講演
2. 出張者：井上理子（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年6月21日（木）10：35～11：25
4. 場所：聖和短期大学 メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
5. 対象者：聖和短期大学 学生（約30名）
6. 実施報告：兵庫県の西宮にある聖和短期大学にて、上記表題の講演を行った。  
今回は井上が旧聖和大学の卒業生であることから講演の依頼がきた。まず、卒業後の進路や自身の経験を通して現在、NGO職員として国際協力に関わるようになった経緯についてパワーポイントを用いて行った。井上自身がネパールという国と出会い、ネパールに友人ができたことをきっかけに、国際問題を身近なものに感じることをできたことを例に上げた。大学生活の中できっかけと成り得る事柄はたくさんあり、そこに自分がいかに気づいて行動するかであることを自身の実体験を元に伝え、自分自身を振り返ってもらう時間も持った。また、国際協力は特別なことではなく世界は自分の生活と繋がっていることを改めて考えてもらい、国際協力は誰でもすぐに始めることができることを伝え、NGOへのかかわり方やボランティア活動等、国際協力への関わりかたを紹介し、すぐに行動に移せるように促した。  
また、NGO、ODAの概要を行い、PHD協会の行う国際協力を例に上げて国際協力のあり方について話した。当協会は18年間ネパールで医療活動を行った当協会の提唱者である岩村昇医師の経験をもとに、一時的なモノ・カネの支援ではなく、草の根レベルの人材交流・育成を目的としていることを伝え、今後の大学生生活の中で自分なりの関わり方について考える一つの材料になったのではないかと。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



聖和短期大学出張サービス「講演」の様子①  
自己紹介と経歴について話中



聖和短期大学出張サービス「講演」の様子②  
PHD協会の活動を例にあげ、国際協力について説明中。

# NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「ワールドハッピーフェスティバル 2012」  
NGO相談員の情報&相談コーナー  
【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 眞鍋瞳子
3. 依頼団体 ワールドハッピーフェスティバル実行委員会
4. 実施日時 2012年6月23日(土) 10時～17時
5. 実施場所 有田川町地域交流センターALEC  
(〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 704)

## 6. 実施報告

### (1) 企画概要

- ① 当協議会では、本イベントにNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。本イベントの関係者や参加者、参加団体など、今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民の理解を深めることを目的とした。
- ② ワールドハッピーフェスティバルは国際交流や地域交流の促進を図るイベントで、今年で4回目を迎える。団体の取り組んでいる活動を紹介するブースや物販・飲食ブース、世界のステージパフォーマンスなどが行われた。
- ③ 本イベントはJICA和歌山デスクとの共同出展で行った。JICA和歌山デスクは世界の国旗のフェイスペインティングを行いながら、JICAの活動を紹介した。

### (2) 参加者 <ワールドハッピーフェスティバル全体>

来場者数：約 500 名  
ブース出展数：100 ブース  
< J I C Aブース >  
ブース来場者数：約 100 名  
個別相談対応：合計 36 名

### (3) 相談内容 ①NPO/NGOの活動について…1件

- ②ボランティアについて…13件
- ③インターン・就職について…2件
- ⑤スタディーツアーについて…4件

- ⑥フェアトレードについて… 2件
- ⑦開発教育について… 1件
- ⑧外国事情… 2件
- ⑨ODA政策一般… 8件
- ⑩国際交流について… 3件

(4) 相談者区分 [学生]13名 [社会人] 9名 [主婦] 4名 [退職者] 5名 [教員] 2名  
[不明] 3名

## 7. 全体的な感想

今回参加した「ワールドハッピーフェスティバル」は国際交流と地域交流をはかるイベントとして開催された。印象としては、販売を行っているところが多く、有田市特産品の野菜や果物の販売をはじめ、飲食ブース、さまざまな国の雑貨や手工芸品の販売や古着の販売などフリーマーケット的な要素が強いイベントであった。また、有田市に在住している外国人の出展や来場が目立ったほか、出展者やボランティアスタッフに和歌山大学の学生たちも多く参加しており、地域に根ざしたものであった。来場者層としては、学生や家族連れ、年配の方々など幅広い層の参加があったが、地方で行われているということもあり、ブース出展をしている団体の知り合いや関係者であったように見受けられた。

JICA和歌山デスクのブースでは気軽にブースに立ち寄ってもらえるように、世界の国旗を顔に描く、フェイスペインティングを実施した。フェイスペインティングを行う前に参加者には選んだ国にまつわるクイズを行い、国の紹介も行った。そのほかにはエコバックを無料配布し、気になる情報を気軽に持ち帰れる流れをつくった。当初、子どもの参加があるということで、フェイスペインティングに人が多く訪れるかと思ったが、情報を求めて訪れる来場者がほとんどであった。さまざまな団体や情報が混在する都市と違い、地方では情報収集する場や機会が少ないこともあるせいか、チラシやパンフレットに興味を持つだけでなく、質問や相談をする来場者が比較的に多かった。ブースに立ち寄る人たちの傾向としては、イベント関係者が多かったこともあってか、国際協力に関心を持つ層が多かったように感じられた。相談内容については、やはり JICA が行っているボランティア事業についての質問や相談が多かったが、JICA 推進員と事前に打合せを行ったこともあり、ブース来場者へは JICA 事業にとどまらず、NGOの取り組みやNGOでの就職、スタディーツアーの説明などがきっちりできたことがよかった。そのほかにはODAの取り組みについて学んでいる学生ボランティアたちが、ODA政策についての情報を求めてブースに立ちよることもあり、幅広い相談内容となった。

前回4月に行われた奈良のイベントに出展した際には、推進員との事前打合せがあまりできていなかったことや、国際協力の取り組みを紹介する仕組みづくりがきっちりできておらず、ワークショップのみで終わってしまったなどの反省点があったが、今回はその反省点を踏まえたこともあり、多くの方に情報を提供できたと思われる。

今後も大きなイベントや都市部で行われるものだけではなく、地方で行われるイベント等などに積極的に参加していきたい。



イベント会場の様子



ブースの様子



ブースの様子



フェスパインティングに参加した来場者

平成 24 年 7 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

### NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

#### 記

1. 企画名：いのちをつなぐアースハーモニー2012
2. 実施日時：平成 24 年 6 月 16 日（土） 9 時 00 分～21 時 15 分  
平成 24 年 6 月 17 日（日） 13 時 00 分～16 時 00 分
3. 実施場所：沖縄キリスト教学院大学 SHALOM 会館
4. 実施内容：沖縄県内のフェアトレードショップと NGO 団体が一同に集まり、世界で起きている問題に触れ、私達ができることを考えるきっかけを作るイベント「いのちをつなぐアースハーモニー2012」のイベントを開催。映画上映後のトークショーへの参加の他、相談員ブースでは、被災地の様子、震災の復興支援に関する NGO の役割などの質問等があった。その他フェアトレード、NGO や国際協力に関する資料を置き閲覧コーナーを併設し、来場者の質問に答えた。
5. 参加者人数：総勢 200 名
6. 所感及び効果

今年で6回目の実施となる。来場者は200名程度であったが、暮らしを考えることをテーマにした映画上映と参加団体のトークショー、東北大震災の被災地でボランティア活動を行っている団体の報告会を開催した。震災から1年以上もたち、マスメディア等でも被災地の情報が少なくなっている中で、関心を持っている方が多くいることが分かった。相談員ブースを設けることで、暮らしの中の課題と国際協力や NGO の活動も併せて紹介することができたのではないかと思う。



映画上映後のトークショーや、ブースコーナーでの相談対応、資料提供を行った。